

「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 文学部・人間関係学科（科目名：小論文）
出題の意図 (評価のポイント)	<p>〈出題の意図・ねらい〉</p> <p>日本文と英文からなる一連の文章を読み、社会科学的な事項に関する基礎的な読解力と論理的な思考に基づいた小論文の作成能力を把握することを本試験の主要な意図とした。</p> <p>本年度の出題の意図を具体的に示すと以下の通りである。社会の変化に伴う人間関係の変容について意識することや、その変化のあり方から将来のよりよい人間関係や社会関係について構想することは本学科のめざす教育理念にもつながる。そこで本年度は、現代社会の人間関係の変容のある側面を「友情化」として概念化し批判的に検討した文献を採用した。</p> <p>特に課題文として抽出した箇所は、「友情化」の一例として「家族の友人化」あるいは「友人の家族化」を取り上げている。なかでも家族関係においてますます友人としての繋がりが重要視されていること、それに対し、旧来の家族関係がやもすれば否定的に捉えられる傾向が述べられている。しかし、このような人間関係の平等思考が親密な関係性において肯定的に評価される反面、そこにはジェンダーや階層などの社会構造に由来する不平等な関係が不可視化されてしまう問題点が指摘されている。</p> <p>このような内容をもとに、問1および問2では英文（原文）の適切な読解力をはかるために、下線が引かれた設問箇所の指示する内容を本文から読み取り、それを適切な日本語にて説明することが求められる。英文法や構文に関する基礎的な能力とともに、逐語的な翻訳に終始せず、より平易で自然な日本語へと置き換える工夫も必要とされる。いずれの設問も、大学入試共通テストにて外国語の能力をはかる機会のない受験生の外国語の（英語の）能力を評価するために設けた。</p> <p>問3では、親子関係の「友情化」についてそのメリットとデメリットを比較しながら、子どもの成長における影響を論じることが求められている。比較の視点を導入し、かつ論理的な議論を組み立てるために、小論文対策などでありがちな自身の立場を明確にしその論拠を示すという紋切り型の論述に代わる工夫が求められる。また、メリットとデメリットを比較しながら論じながらも論旨を一貫させるために、事象の複数の面を多面的にとらえながらも、個々で取り上げる事例や論点が相互補完的な内容を構成し、小論文全体の趣旨を損なわないようにするような論理構成上の工夫も求められる。</p>